うるい促成栽培

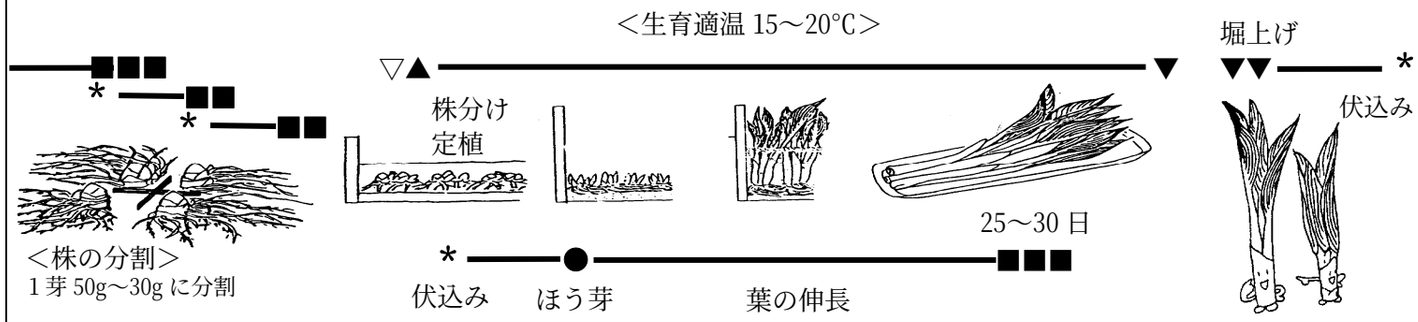
平成 22 年度版

月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下

目標収量　1,200～1,000Kg
優　良　品　８０％以上

栽培体系

<生育適温 15～20℃>



・養成株　10,000～13,000 株（1 芽苗）3,000～2,000（大苗）
　うね幅　100～120cm（下図参照）
　条間　30cm（2 条）
　株間　　15～20 cm
・伏込み（3 回転）
　ハウス　80 ㎡
　促成床　50 ㎡
　伏込み　70 株/㎡
　電熱線　150W/坪
・出荷：100ｇ/ﾊﾟｯｸ
・収穫（2 名）8 時間/日
　約 750～780 ﾊﾟｯｸ

	肥料名	数量
全量基肥	堆肥	5ｔ
	苦土石灰	100Kg
	BM ようりん	80Kg
	ロング 140 日ﾀｲﾌﾟ	110Kg
	燐硝安カリ S604 号	30Kg
	N 成分約 20Kg／10a	

病害

<病害虫の被害は少ない>

斑紋病　　円星病
（土壌病害　白絹病）　　さび病

栽培上のポイント

1.株養成

(1)株の分割
・繁殖は株分けで行う。
・時期は春～秋が適する。
・株分けの苗の大きさは充実した芽を１つ以上残したもの（50g 以上）が良い。
・大苗利用としては 2 年養成株を 4 分割程度にした苗（芽が３～４芽程度ついたもの）を植え付ける。（株分け定植作業の省力化が図られる。上記図参照）

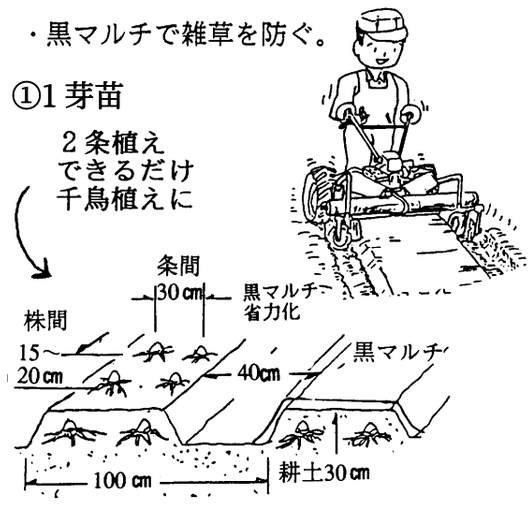
(2)養成畑の準備
・腐植に富んで排水が良く、保水性のある圃場を選ぶ。
・深さ 30cm ほどを十分に耕起する。
・良質な堆肥を多く施し、基肥は緩効性肥料を施す。

堆肥5～10t/10a

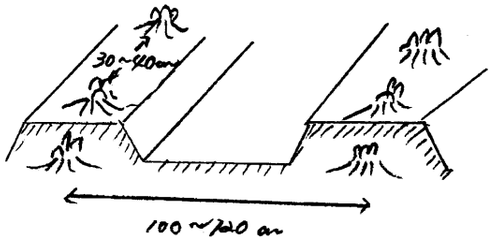
(3)定植

・黒マルチで雑草を防ぐ。

①1 芽苗



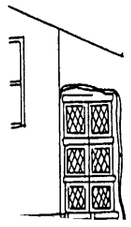
②大苗

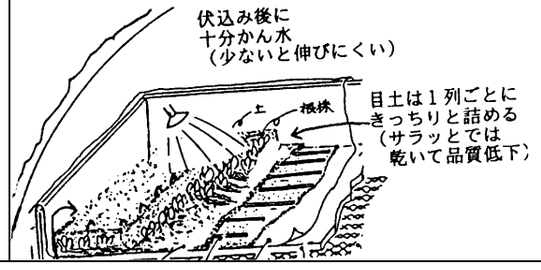


2.促成

(1)株の堀上
・葉が黄変したら掘り上げる。
・根株は促成施設の近くに寄せてわら等を被せる
・乾燥、野鼠害に注意

(2)促成準備（床 50 ㎡　3 回転）
・ハウスにカーテンを張り促成床を作る。
・促成床の電熱線は坪当たり 150wの割合で敷設する。





(3)促成管理（休眠打破 8℃以下 900 時間遭遇、平坦部目安 12/下頃）
・株は隙間がないように詰めて根が隠れる程度１列ごと目土を入れる。
・詰込み後十分に潅水して籾殻を 12～15cm かける。
・地温は 20℃とするが、収穫期が近づいた時点で 18～15℃前後に下げ急激な伸びを避ける。
・葉先が籾殻から出てきたら急激な高温、低温、強光を避ける。

(4) 収穫・出荷
<規格の厳守>
・籾殻の上の葉が飛び出し緑化したら収穫を行う。

うるい促成栽培暦

平成 22 年度版

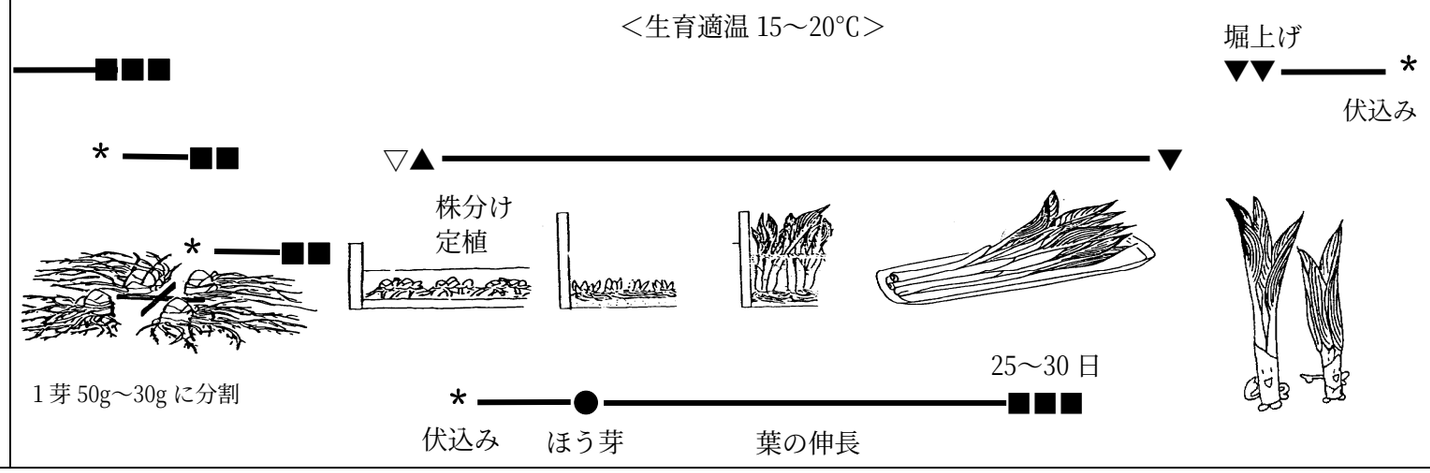
支店名＿＿＿＿＿＿＿＿支店　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下

目標収量　1,200～1,000Kg
優　良　品　８０％以上

栽培指針

<生育適温 15～20℃>



・養成株　10,000～13,000 株
　うね幅　100cm　条間 30cm（2 条）
　株間　　15～20 cm
・伏込み（3 回転）
　ハウス　80 ㎡
　促成床　50 ㎡
　伏込み　70 株/㎡
　電熱線　150W/坪
・出荷：100ｇ/ﾊﾟｯｸ
・収穫（2 名）8 時間/日
　約 750～780 ﾊﾟｯｸ

	肥料名	数量
全量基肥	堆肥	5ｔ
	苦土石灰	100Kg
	BM ようりん	80Kg
	ロング 140 日ﾀｲﾌﾟ	110Kg
	燐硝安カリ S604 号	30Kg
	N 成分約 20Kg／10a	

月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下

栽培暦

例
（＿＿月＿＿日）（＿＿月＿＿日）（＿＿月＿＿日）　　（＿＿月＿＿日）

株分け
定植

記入欄：

記入記号：＊・・・伏せ込み　▽・・・株分け　▲・・・定植　▼・・・堀上　■・・・収穫

・養成株：＿＿＿＿＿＿株
　うね幅：＿＿＿＿＿cm
　条　間：＿＿＿＿＿cm（＿＿＿条）
　株　間：＿＿＿＿＿cm
・伏込み（＿＿回転）
　ハウス：＿＿＿＿㎡
　促成床：＿＿＿＿㎡
　伏込み：＿＿＿＿株/㎡
　電熱線：＿＿＿＿W/坪
・収穫人数：（＿＿名）

	肥料名	現物数量
全量基肥	＿＿＿＿＿＿	＿＿＿＿
	＿＿＿＿＿＿	＿＿＿＿
	＿＿＿＿＿＿	＿＿＿＿
	＿＿＿＿＿＿	＿＿＿＿
	＿＿＿＿＿＿	＿＿＿＿